

横浜市立六浦中学校

平成29年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 授業に取り組む姿勢は悪くないが、学習習慣が身につけていない生徒が多く、学力の向上につながっていない。
- (2) 配慮を要する生徒が増え、個々への対応が困難になってきている。指導体制の構築が課題である。
- (3) 教員は人権の視点に立った授業改善に取り組んでいる。今後も全教科等で焦点化したテーマを設けるなど組織的な取組が必要である。

2 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

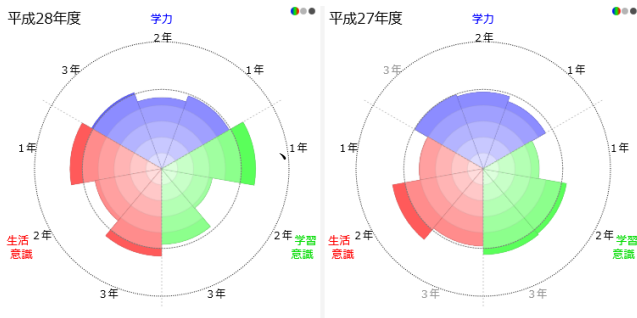
学校経営中期取組目標

1. 一人ひとりの生徒を大切にしたい分ける授業を推進し、学力の向上を図ります。
2. 人権・福祉の学習をさらに推進し、暴力や差別のない、挨拶と笑顔のあふれる学校づくりを進めます。
3. 生徒や保護者の思いを大切に受け止め、相互の信頼感と相手意識をもって柔軟な学校づくりを目指します。
4. 地域の温かさと大切さを語り継ぎ、「地域とともに歩む学校」の実現に向けて努力します。
5. 教職員が、社会的な視点・要請を自覚し、危機意識と当事者意識を持って学校運営に取り組みます。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	・生徒による授業評価を活用し、「わかる授業・楽しい授業」を推進する。	・授業評価をしっかりと活用して、自分の授業を振り返り、授業力向上につなげるための取組を学校全体で行う。 ・「わかる授業・楽しい授業」をめざし、研修会の企画・運営を行う。 ・人権の視点を踏まえた授業づくりを意識した取組ができるように金沢ブロックや小中一貫教育を活用する。
担当	学習指導部	

3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均値から若干下回る状況である。

分析チャートを個々に見ると教科や学年によって大きく差が生じている。市の平均を上回る学年・教科は、学習意識も上回っており、学習の必要性や意義を理解することが学力向上に結びついている。

生徒の学習意欲を高めるため、教職員全員による組織的取組が必要である。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：「読む能力」が市の平均を下回っている。
- 社会科：3年生は「思考・判断・表現」が、2年生は「知識・理解」が市の平均を下回っている。
- 数学科：3年生は「知識・理解」が市の平均を下回り、2年生は「見方や考え方」が市の平均を上回り、数学科意識も高い。
- 理科：3年生は「観察・実験の技能」が市の平均を下回り、2年生は「自然事象についての知識・理解」が下回り、「観察・実験の技能」が上回っている。
- 外国語科：3年生は全般的に、市の平均を下回り、2年生は「言語に関する知識」が下回っている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成25年度から平成28年度4年間の変化を見ると、学校全体としては、各教科平均して高まっている状況があるが、学習意識は、教科による差が大きい。また、3年生は、1年次、2年次の結果が、国語・社会・理科で異なった傾向がみられた。

4 平成 29 年度 学年・教科等としての具体的取組

国語

- 漢字等基礎的・基本的な内容を計画的に反復学習させる。
- 生徒の興味・関心を高めるために、視聴覚機器を取り入れた学習形態を工夫する。
- 目的や場面、意図等を意識して話したり聞いたり、書いたり、読んだりすることを通して、思考・判断する場面を充実する。

社会

- 思考判断表現力を高めるため、課題学習を効果的に取り入れる。
- ICT 機器を積極的に利用し、関心・意欲を高めていく。

数学

- 確認問題や確認テストなどで基礎的な計算や知識の定着を図る。
- 分かりやすい授業を念頭に置き、生徒自身の力で問題を解けるようにフォローしていく。
- 数学的活動を重視し、身近な生活と関連付けた学習を意識した授業の展開を心掛ける。

理科

- 身近なものと学習内容を結びつけて思考することで、意欲のさらなる向上を図る。
- 予想や考察など考える活動を積極的に設ける。
- こまめに確認問題をやることで知識の定着を図る。

音楽

- 生徒の実態にあわせて〔共通事項〕を重点化した授業構成を行い、音楽活動の充実に必要な基礎的・基本的能力の伸長を図る。
- 鑑賞では感じたことを話し合うなど、生徒同士のコミュニケーション活動を高められる活動を取り入れる。
- 合唱コンクールでは他教科領域の学習と関連づけをして、生徒がより主体的に学習できるようにする。

美術

- ICT 機器をさらに活用したわかりやすい資料提示、実技見本、鑑賞活動を展開させる。
- 生活の中に関わるものや事柄に、美術的な視点を結びつけた内容で、興味関心を引き出す。
- 題材全体の活動の中で、見通し・振り返りを大切にした授業づくりを行い、生徒による授業評価等で検証し、授業改善を進める。

技術・家庭

- 実践的・活動的活動を充実させ、実生活と結びつけた授業を行うことで、関心・意欲の向上を図る。
- ICT 機器を活用し、実技見本等をよりわかりやすくし、ものづくりでのつまづきの軽減を図る。

外国語

- 英語はコミュニケーションの手段なので、机上の学習（インプット）だけでなく、実際に使ってみる活動（アウトプット）を増やす。
- いろいろな教材を用いて、生徒の興味を惹きつける授業展開を目指す。

特別活動

- コミュニケーション能力を育みよりよい人間関係を築かせるために、行事活動の充実を図る。
- 話し合い活動では、相手の考えや思いを尊重し、協力して問題解決する態度を育てる。

総合的な学習の時間

- 地域祭礼への参加で実体験したことを整理分析することで、地域で生きる自分自身を意識していく。
- 職業体験を通じたキャリア教育で、自己の将来への考えを深められるようにする。

個別支援学級

- 生徒自ら自立活動の学習に主体的に取り組むために、一人ひとりの実態に応じた学習環境を整える。
- 言語活動の場を多く設定し、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 個別の指導計画を定期的に見直し、生徒の発達に合わせた指導の充実を図る。